

TOPIX

日本と韓国の建築系学生が アートポリス見学・意見交流会



熊本市宮新地団地で説明を熱心に聴く韓国の学生たち

質の高い建築文化を発信する「くまもとアートポリス」には、毎年国内外から多くの視察者が訪れている。平成13年8月23・24日には、韓国光州廣域市湖南大学から建築系学生41人が来熊。熊本市宮新地団地や県立美術館分館、熊本北警察署などを見学した。

また23日は同じく「くまもとアートポリス」の見学に訪れた建築系の筑波大学学生29人と設計者の上田憲二郎氏を交えての意見交流会を開催。「建築は実物を見ることも大切なので、とてもうれしい」「韓国でもこういうスタイルの建築が増えてくるかも」との日本と韓国の学生の声がかかれた。



シンポジウム「公共建築の新しいデザイン・プロセス—くまもとアートポリス」には「私たちのまちづくり事業」担当建築家が参加

平成13年7月3日、東京で行われたシンポジウム「公共建築の新しいデザイン・プロセス—くまもとアートポリス」ではアートポリス事業である「私たちのまちづくり事業」がテーマの一つとなった。また、平成13年9月22日に東京大学で開催された「2001年度日本建築学会大会」の建築計画部門パネルディスカッションでも、くまもとアートポリスが取り上げられた。

各地のシンポジウムで
アートポリスに注目集まる

kumamoto artpolis news 27

くまもとアートポリスニュース第27号 2002年3月発行

鹿北、不知火、牛深、各地の
アートポリスプロジェクトが
各界の建築賞受賞!



鹿北町アート・プロジェクト

熊本郡鹿北町の「鹿北町アート・プロジェクト」は2001年度グッドデザイン賞(建築環境デザイン部門)と第17回都市公園コンクール審査委員会特別賞を受賞。宇土郡不知火町の「不知火文化プラザ」は、建築、サービス面に優



不知火文化プラザ

れた全国の図書館を表彰する第17回日本図書館協会建築賞を受賞。また、牛深市の「牛深ハイヤ大橋」は日本に美しい環境を造りだすために創設された土木学会デザイン賞の最優秀賞に選定された。



牛深ハイヤ大橋

第7回アートポリス推進賞に「荏原九州」「K.Residence」選定!



荏原九州

- ◆所在地/玉名郡南関町肥猪
- ◆用途/事務厚生施設及び工場
- ◆設計・施工/清水建設



K.Residence

- ◆所在地/熊本市新土河原
- ◆用途/専用住宅
- ◆設計/森繁・建築研究所
- ◆施工/岩永組

熊本県内の優れた建築物を審査する、アートポリス推進賞の最終選考会が1月12日に開催された。書類審査、現地審査の後、応募総数67件から推進賞2件、推進賞選賞5件が選ばれた。

推進賞を受賞した「荏原九州」は、植栽の施された中庭に面するカフェテリアが明るく開放的であることに象徴されるよう、近代建築の特徴である透明感を高いレベルで表現している点に注目が集まった。同じく、「K.Residence」は、水庭を中心に諸室を配置することで、いつでも家族がお互いに気配を感じることができ、また、外部からの視線を遮りながらも、四季の変化を楽しむことができるよう計画がなされている点が受賞の決め手となった。

人と文化とアートポリス



プロジェクトガイド【詳細版】

- 進行プロジェクト
- 寄稿「建築の楽しみ」見城 美枝子氏
- トピックス

人と文化とアートポリス

事業開始から現在に至るまで、アートポリスプロジェクトはさまざまなものを発信し、育んできた。今回は、その中でも地域の文化と深く結びつき、県内へ、全国へ、地域の文化を発信するきっかけになったアートポリスプロジェクトと、そこで生きる人々を訪ねた。

Prefectural Decorative Tumulus Museum

県立装飾古墳館

スロープを降りていくにつれ古代の世界へと誘われる



古代経験を楽しむ子どもたちの表情は、次第に生き生きとしてくる

周辺の自然や古墳群と一体化

県北部に流れる菊池川流域は、古墳文化財の宝庫。山肌には横穴古墳群が整然と並び、1500年もの時を超えて古代の文化が息づいている。中でも壁面などに彩色や彫刻による文様が施された装飾古墳は、122基。その数は、全国の2割をも有するという。

緑豊かな丘陵に建つ県立装飾古墳館は、装飾古墳をテーマにした全国でも珍しい博物館だ。建物も前方後円墳をイメージしており、周辺の自然や古墳群に違和感なく溶け込んでいる。展示室などがある館内へは、屋上から続くらせん状のスロープを下って入っていく。一度階段を上がり周囲の古墳のある風景を眺めながら、建物にぐるりと巡らされたスロープを降りていく間に、次第に古代の世界へと導かれていく、そんな感覚である。



「石を削るのって面白い」「どんな形にしようかな」



「何度も来たくなる」。ユニークな体験メニューが人気

県立装飾古墳館で「石器作り」を体験して以来、石を削って何かを作るということに病みつきになってしまった小学生がいる。「先生、見て。また作ったよ」と、自作の鎌を持っては毎週のようにやって来る。その顔は、達成感で輝いている。

ここ県立装飾古墳館では、石器作りや火おこし、塩作りなど古代生活を体験できる「古代たいけん隊」をはじめとして、勾玉作り、縄文土器作り、縄文布作り、縄文ドングリクッキー作り、など、実に様々な古代体験教室が開かれている。「便利な世の中なればこそ、あえて不自由さを体験することに大きな意味があると思います」。最初は受け身だった子どもたちが、自分でやることで、変わっていく。「自分でも出来るんだと発見し、自信を持つ、感動する。この経験が、将来自分で何かを解決していくことにつながれば、と思いますね」と学芸課指導主事の谷口さんは話す。参加者は、年々急増し、平成13年度はすでに1万5000人を超えている。古代体験に魅了されたという親子リピーターも多く、地元の小中学生が地域の歴史を学ぶ総合学習の場としても活用されている。古代のエネルギーを発信する「現代の古墳」は、地域とそこに生きる「次世代」の活力を培っている。



およそ3時間で土のかたまりが表情豊かな土偶に変わる

ゆるやかなスロープが、古代の世界へ誘う

Yunomae Caricature Art Museum

湯前まんが美術館

球磨地方の伝統玩具「きじ馬」がモチーフになった



常設展示室には那須良輔の作品などが並び



まんがの町をささえる親子きじ馬の美術館

山村の一角で寄り添う5体の親子きじ馬。伝統玩具を象つたユーモラスな外観が目を引く、湯前町出身の風刺漫画家那須良輔氏を記念して作られた湯前まんが美術館だ。木材を多用した展示室は、風刺漫画の持つ人間的な温かさや調和し、訪れる人の心にゆとりを感じさせてくれる。

まんが美術館では、平成4年の開館以来毎年、風刺漫画展「那須良輔風刺漫画大賞」が開催されている。その年の世相を鋭く捉えた400点を超える応募作品が全国から寄せられる。地元小・中学校からの応募も多いジュニア部門では、身近な問題をユーモアを交えて表現する子どもたちの視点が話題になるという。年に1度の受賞作品展を楽しみにしている町民も多く、期間中は多くの町民が繰り返し訪れる。ほかにも、周辺施設と協力してイベントを行うなど「まんがの町」形成にも大きく寄与している。

地域の伝統玩具「きじ馬」に、風刺漫画が集う



昨年行われた第10回漫画展の大賞を受賞した、小林尚武氏(つくば市)の「やきとり屋のビル火災」

現代にこそ必要な質の良いユーモアの文化

「同じ絵でも、見る人で感じ方は変わります。家族で見に来た後、どう感じたかを話しているのもよく目にします。それを毎年続けていくことで、全国の人に、良いものを感じる心、常にユーモアを忘れないゆとりを持って欲しいですね」と、桑原征一郎館長は語る。

殺伐となりがち時代だからこそ、質の良い息抜き、癒しが不可欠となる。その一つとなる風刺漫画文化。きじ馬から発信されるユーモアの文化が地方と全国をつないでいる。

Ayunose Bridge

鮎の瀬大橋

緑の中を渡る橋が、文化を伝え交流を生む



緑川の深い渓谷に架かる「鮎の瀬大橋」。自然の中のアクセントになっている

棚田に受け継がれた生きる知恵

ゆるやかな曲線を描く棚田が連なる矢部町菅地区。菅地区には美しい棚田が広がり、清冽な水と丁寧に耕された土からおいしい米ができる。山深いこの地区と矢部町の中心部を結ぶのが「鮎の瀬大橋」だ。連なる山々の緑に映える、メタルオレンジのケーブルと、崖の岩肌に馴染むコンクリートの脚。深い渓谷と斬新なデザインの橋が作るダイナミックな景観を見に、都市から多くの人が集まるようになった。

「橋を見に来た人たちに、私たちが先祖から受け継いだ文化を知ってほしかったんです」。そう話すのは渡辺ヤス工さん。橋の完成をきっかけにつくられた物産館「鮎の瀬交流館」を運営する山里会の代表だ。菅の文化の一つとしてつくられたのが、郷土料理の「かすよせ(米、大豆、野菜を一緒に煮たもの)」をアレンジした「かすよせコロッケ」。少ない米を大切に食べる智慧が生んだものだ。館内には他にも菅の恵みが育んだ地元の産品が並び、訪れる人々に菅の文化を伝えている。

都市と人にやすらぎを、地域に活力を

「陸の孤島」と呼ばれた菅地区の生活は、「鮎の瀬大橋」ができて格段に便利になった。もともと「山里のやすらぎ



昔のおいしい米と水を活かした日本酒などの物産が振興会で作られている

郷土料理「かすよせ」をアレンジしたアイディア料理「かすよせコロッケ」



「鮎の瀬交流館」には地元の産品が所狭しと並び



「鮎の瀬大橋」がもたらした交流のひと「棚田体験ツアー」



をテーマに地域づくりに取り組んできた菅地区。矢部町の中心部との距離が短くなることで、都市との交流も活発になった。棚田での農作業を体験する「棚田のふれあいツアー」や米作りから酒造りまで体験する「酒造りトラスト」などの体験メニューには、橋を渡って多くの人が集まる。「住民の方々のあたたかさやうれしくて通ってしまう」と参加者は言う。「棚田、米、郷土料理。昔の暮らしそのものが文化であり財産であると住民全体が意識するようになりましたね」と菅地域振興会会長の緒方肇さん。「鮎の瀬大橋」が伝えるもの。それは、訪れる人だけではない。菅地区の暮らしと「やすらぎ」、人々の温かさとのふれあいは、これからも「鮎の瀬大橋」を渡り、いろいろな人に伝えられていく。

集いの場をもった開放的な空間 ここで新しい味が創られ発信される



泉村の気候風土が美味しいお茶を育む。販売コーナーには15メーカー以上のお茶が並び

イノシシ、シカ、山菜。 受け継がれる味

切り立った山、深い谷に囲まれた秘境・泉村は、面積の94%が山林という山岳集落の村。イノシシやシカ、山菜を使った料理が受け継がれてきた。猪鍋が付いた猪鍋定食は泉村に建つアートポリスプロジェクトのひとつ「ふれあいセンターいずみ」内にある食事処「滋味健丈 炉丹」の、冬の人気メニュー。ほかに大ぶりなイノシシ肉を炭火で焼いた串焼きやシカの刺身など郷土の味が充実している。

Izumi Village Center

ふれあいセンターいずみ



イノシシ肉の串焼き(写真左上)や竜田揚げのセット(写真左下)、シシ鍋のセットなど、泉の食文化が発信される

旬を大切に。伝統に新しい味をプラス

泉村は茶の産地としても名高い。地元の茶を使った「御茶葉膳」は、お茶の粉末を練りこんだ「だご」が入っただご汁などが並び、お茶づくしのコース(要予約)だ。「お茶を『食べる』という楽しみ方を提供したかった」と泉村生まれの淵元尚料理長は話す。

ほかにシカ肉のステーキや竜田揚げといったメニューもある。「鹿刺し以外の新しい食べ方を、とって…。ある時地元の方がシカ肉をショウガ汁に漬け込むとウマイ、って教えてくれました」。

そして伝統の食材にプラス、大切にしているのは、旬。「年中何でも食べられ、季節感が希薄な時代ですからね」と料理長は言う。

オープンして5年。「ふれあいセンターいずみ」は「伝統」や「旬」の味を大切にしながら、新しい味をプラスして、泉村の新たな食文化を発信し続けている。

Prefectural College of Agriculture Dormitory

県立農業大学校学生寮

回廊が生み出す交流が、農業で共に生きる若者たちを育む

農業後継者を育成する学校にふさわしく、外壁にも内部にも熊本の豊かな県産材をはじめ、自然の素材をふんだんに使った学生寮。「窓枠まで木なので、あたたかくてやわらかい感じがします」と口をそろえるのは、学生会の徳山道拓さんと深瀬美香さんたち。

木のやさしい感触が学生の心を和ませるのだろう。鉄筋コンクリート造りの旧寮では落書きなども見られたが、ここでは皆無だ。

また、旧寮では4~6人だった1部屋の定員も、新寮はわずかに2人。寮の部屋を出ると、中庭を中心に回廊が続く。随所に交流のためのスペースが設けられている。空間のゆとりが、学生の心にゆとりも与えているのだろう。

回廊を行き来する学生たちにも、総じて落ち着いた雰囲気がある。

交流スペースに集う学生が少ないからといって、学生間の交流がない、と心配するのは早計だ。「交流スペースは寮で生まれたカップルに譲って、同性で集まる時には狭くても誰かの部屋におしかける」という学生たち。「寮でできた友だちは、きょうだいのような(一生続く)仲間」と互いを認めあっている。木の学生寮では、共に学び、共に暮らす若者たちのやさしい友情が穏やかに育まれているのだ。



木立の中の教会をイメージしたという木の香あふれる食堂。



卒業後はそれぞれの地元に戻る若者たち。寮での共同生活は、貴重な人生経験だ

Ushibuka Haiya Bridge

牛深ハイヤ大橋



銀の帯のような牛深ハイヤ大橋が、牛深港の景観を一層美しくする

熊本の海の景観を代表する 景観形成地域に指定

さながら真っ青なキャンパスに描かれた銀色の曲線—牛深港にまたがるハイヤ大橋だ。周囲の風景を映したその姿は、日中の海の青、夕暮れのオレンジ、夜の深い藍色と、1日のうちでもさまざまに変化する。

牛深漁港一帯は、平成10年に熊本県の海の景観を代表する地域として、熊本県景観形成地域に指定された。景観形成地域に指定されると、建築物の色、高さ、屋外広告や看板のデザインについてなど多くの規制を受ける。ハイヤ大橋の完成が近づくと共に、地域住民の景観に対する意識も少しずつ高まっていった。条例が施行されると、地域住民も積極的に景観づくりに参加。海上の船から漁港全体の町並みを眺め、目立ち過ぎる建物の高さやライティングの加減などを確かめた。さらに約20件の建物が外壁を指定色に塗り替えるなど、景観づくりに協力的だ。

まちを盛り上げる「景観文化」

「牛深が自慢できた漁業も、昭和20年代ころから右下がりですよ。まちに元気がなくなっているときに、世界的な建築家の橋が架かったら、牛深を象徴する新スポットができると期待しましたよ」と語る地元商店主。ハイヤ大橋の袂には、同じくアートポリスプロジェクトである物産館「うしぶか海彩館」があり、水産加工品を買い求める多くの観光客で賑わっている。年間の観光客数も飛躍的に増加したという。

優れた景観は一朝一夕に出来るものではない。長い時間をかけ、景観という名の「文化」を醸成する試みが、アートポリスをきっかけに今、始まった。



景観形成地域の一部。牛深市役所も外壁の色を塗り替えた



連日多くの人で賑わう、物産館「うしぶか海彩館」。新鮮な魚介類などが人気だ

進行中のプロジェクト

建設中、設計中など現在進行中のアートポリス・プロジェクトの様子をお伝えします。

住民活動の発信基地を作る

苓北町民ホール

阿部仁史+小野田泰明



この町にどんな施設が必要なのか？住民とのワークショップを通じて探り出したこの場の役割は、住民のさまざまな活動を支援し、結びつけ、外に向けて発信する基地でした。ボランティアサロンを中心に、200席のホールなどがそれを取り囲むように配置された建物は、地元産の杉を使った集成材による構造で、うねるような独特の形態をしています。

地域住民と協働して設計中

小国町立北里小学校 屋内運動場

末廣香織



住民のみなさんとのワークショップの成果をもとに、体育館および既存部分改築の設計が進んでいます。2度の計画説明会でも多くの意見が寄せられ、内容がより具体的なものになりました。既存施設の引っ越しや新体育館の管理運用方法など、残された課題をクリアしながら、来年度も引き続き住民の方々との協働して建設作業に取り組む予定です。

地域文化の核となる施設に

砥用町文化交流センター

八束はじめ



小規模なホールを中心に、ギャラリー、研修室、図書室など地域の核となる文化施設として計画されています。機械空調依存を減らすために通風や遮光に留意し、地域性を考えながら、新しい木の使用を考えたデザインを行っています。

今春オープン 21世紀型総合福祉施設

西合志町 保健福祉センター

今村雅樹+田尻設計



この生活支援施設は、地域交流部門・子育て支援部門・介護部門・デイセンター部門・保健部門を有機的に繋いだ、まだ国内にも珍しい21世紀型の総合福祉系地域施設の複合体です。住民参加によりこの案がまとまり、今春オープンの予定になっています。

木材を生かした 団地建設が進行中

南小国町営 矢津田・杉田団地

片山和俊+川崎設計事務所(基本設計)+
太宏設計事務所(実施設計)+DIK設計室



南小国町営住宅建替事業は、第1期矢津田団地の内、8棟16戸分が昨年10月に着工しました。年末までに1階コンクリート打ちが終わり、2002年1月半ば現在2階の木造部分の工事が進んでいます。

南関町で「私たちの まちづくり事業」始まる!

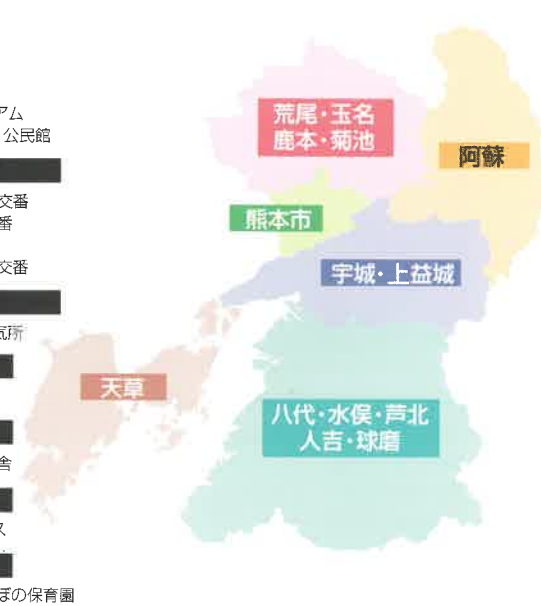
南関町 私たちのまちづくり事業

担当建築家
奥山信一(東京工業大学)



平成14年1月18日に行われた第1回のワークショップには60名が参加。中心市街地を活性化するため、関川河川沿いにどんな機能を持つ建物が必要なのか話し合われ「いつも人が集まっているような場所」など200以上のアイデアが出されました。

AREA MAP



- ### 建築目的別リスト
- 集合住宅など**
 - 県立農業大学校学生寮
 - 熊本市営新地団地A
 - 熊本市営新地団地B
 - 熊本市営新地団地C
 - 熊本市営新地団地D
 - 熊本市営新地団地E
 - 熊本市営託麻団地
 - 県営新渡鹿団地
 - 再春館レディースレジデンス
 - 県営保田第一団地
 - 県営新山A団地
 - 県営尾蛇平団地
 - ターミナルビル**
 - 有明フェリー長洲港ターミナル
 - 三角港フェリーターミナル(海のピラミッド)
 - 物産・観光施設**
 - 花の温泉館
 - 天草ビジターセンター・天草展望休憩所
 - うしぶか海鮮館
 - ふれあいセンターいずみ
 - つなぎ物産ギャラリー
 - 事務所**
 - 石打ダム管理所
 - 漁業取締事務所
 - 水川ダム管理所
 - 松島町合津終末処理場管理棟
 - 公園関係施設**
 - 鹿北町アート・プロジェクト
 - 阿蘇・散墨園
 - 草千里公衆トイレ
 - TOTO AQUAPIT ASO (阿蘇山上公共トイレ)
 - 玉名天望館
 - 熊本市花畑パークトイレ
 - 熊本市上江津湖畔トイレ
 - 水前寺江津湖公園管理棟
 - 清和文楽色道の駅公衆トイレ
 - 富岡園地公衆トイレ
 - 教会の見えるチャペルの鐘展望公園
 - 橋梁など**
 - 杖立橋+Pホール
 - 馬見原橋
 - 白川橋景観整備
 - 船の瀬大橋
 - 湯の香橋
 - 牛深ハイヤ大橋
 - 博物館・美術館など**
 - 県立装飾古墳館
 - 県立美術館分館
 - 石打ダム資料館
 - 不知火文化プラザ
 - 八代市立博物館
 - 未来の森ミュージアム
 - 湯前まんが美術館・公民館
 - 警察施設**
 - 一の宮警察署内牧交番
 - 荒尾警察署長洲交番
 - 熊本北警察署
 - 熊本北警察署坪井交番
 - 道路施設**
 - 加久藤トンネル換気所
 - 劇場**
 - 清和文楽館
 - 農業施設**
 - 草地畜産研究所畜舎
 - スポーツ施設**
 - 宇土マリナーハウス
 - 福祉施設**
 - 八代市立高田あけぼの保育園

寄稿 [建築の楽しさ]

見城 美枝子

KENJO MIEKO

青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト
早稲田大学大学院理工学研究科修士課程終了。1999年4月より同博士課程に在籍。日本建築の研究を進める。TBSアナウンサーを経てフリーに。これまでに53か国以上を訪問。現在青森大学社会学部教授。建築社会学、メディア文化論、環境保護論を講義中。著作、対談、講演、テレビで活躍。現在、テレビ朝日「ワイド!スクランブル」に出演中。また今年ニューハウス出版より本人の体験をもとにした「リフォームの本」を出版予定。



私が青森大学で建築社会学を教えていると言うと、建築の専門家からもそうでない方からもほとんど同じ質問が来る。「建築社会学? 初めて聞いた。それは何ですか?」

私がつくった科目なので無理もない。私は答える。「社会学部の学生に建築を社会学的視点で見てもらおうのです」。建築というものを一度も意識しなかったであろう学生なので、最初建築なんて興味ないし参ったな、という感じで教室に入って来るのだが、一回目の授業は、「自分の部屋」がテーマ。一体自分はどんな住空間に住んでいるのか考えてもらう。次の授業は「自分の育った家」を書かせる。人は家で生まれ家で育まれる。家の構造、住空間によって人に所作、立ち居振舞い、「らしさ」というものが備わって来る。日本人も日本の家によって日本人らしさを身につけてくるのだと思うが、それまで「家と自分の関係」を見つめる機会がなかった学生が大部分だと思う。でも面白いことにみんなそれなりに家の間取り図が描け、自分がその家の中でどのように過ごしてきたか、家族とはどういう関係であったか、結構熱心に書いてくる。次は日本の住宅の歴史を古代から現在まで、住様式に政治や服装史を重ねて見てみる。住まいと人の暮らしがどのように対応しているのか。学生はだんだん建築というものに興味を持ってきて、実際に縄文の遺跡の三内丸山へ出かけるころには、観光の視点ではなくなってくる。

次に弘前の古い商家や武家屋敷に行くと、いい建物といわれる建築の良さがわかってきて、故郷の古い家を嫌だと思っていた学生が自分の家を見直したり、すでに新築してしまった家の学生がやはり新しい方が良いと比較したりするようになる。一般の人がこういう感覚を建物に持つようになることが日本の建築文化、家並み文化にとって重要なのではないだろうか。1年間の終わり頃に駅前を代表する商店街の調査に出すと、学生たちは街と建物とそこに住む商店街の人達や、やって来る客たちの関係をかなりシビアな目でレポートしてくる。街は人がつくるものだけれども、その人の集まりを形成する要素は建物にあると建築の重要性に気

付くのだ。

先日、講演で三州瓦の愛知県高浜町へうかがったら、駅前のビルやマンションがそのファサードに立派な瓦を使って建てている。改めて現代の建築にもマッチする瓦の美しさと関係者がその普及に熱心であることを知って、京都のお寺で雨の日に体験した話をしてみた。

お寺の軒は樋を付けたのでは美しくない。広縁に座って、雨のしずくが落ちる深い軒の美しさを見上げ、その軒によって縁取られた目の前の庭を見つめているうちに、何ともいえない静けさに私は包まれていた。雨が軒から落ちる。目を閉じるとかすかな音色が聞こえて来る。水琴窟の音色だ。見れば雨は縁の先に割った瓦を並べてつくられた犬走りの上に落ちて、その瓦に跳ねてかすかな音色を響かせているのだ。雨水を土に美しく返す先人の知恵、建築の美をこんなところに発見するのも建築を見る楽しみのひとつだが、その心意気を現代の建築にどう生かせるか考えるのもかなり楽しい。最近の雨水利用の無粋なポンプの代わりにこの水琴窟の響きのする瓶をつくれれば、家の脇に置いてあっても美しいはず。温故知新。これは建築にも当てはまる。

青森にはアスパムという物産館が建っている。以前この建物は、公共建築の審査会場で三角形の俗悪な建物、と賞から落ちてしまった。この時思ったのだが、建物は図面や写真で見ると見るものではなく、実際に建っているその地域に行ってみるべきものだ。アスパムは青森の町にとってはランドマークで、夜ともなると海にかかる青森ベイブリッジと共にオーロラ色にライトアップされて、旅情を誘う。そして夏の最大の祭りである「ねぶた」の制作小屋と出発点でもあり、と、建物はその町の人でなければ良さがわからない部分もある。

熊本にはこれほど多くの美しい建造物があるのだから、まず、ひとつずつ見てみたい。多分、100の話聞くよりもアートポリスの建物群が熊本や熊本県人の何たるかを教えてくれると思う。それに現代に生かせるアイデアが沢山出るだろうし、学生に授業したら延々続くに違いない。

くまもとアートポリスプロジェクトの建造物。各建造物の所在地で行われるイベントなども併せて紹介しています。

詳細版

荒尾・玉名・鹿本 菊池

ARAO/TAMANA/KAMOTO/KIKUCHI AREA



- Project No. 21 県立装飾古墳館**
 - ◆設計/安藤忠雄
 - 鹿本郡鹿央町岩原 TEL.0968-36-2151
 - 月休、9:30~17:00、入館料410円
 - 全国初の古墳専門博物館。周辺には有名な古墳群が点在する環境にあり、この建物も単なる展示施設ではなく周囲との一体化を強く意識してデザインされている。どんぐりクッキー作りや勾玉作りなどの体験教室も人気がある。
- Project No. 29 玉名天望館**
 - ◆設計/高崎正治
 - 玉名市大倉 TEL.0968-75-1122 (市役所)
 - 菊池川沿いの桃田運動公園内にあり、玉名市街を一望。「地の座」「雲の座」「星の座」の3層から構成されており、中央の玉の室は小宇宙を表現。幸福の象徴・蓮の花と町の発展を願う3本の矢とともに、「環境生命体」としての建築を創造した。
- Project No. 50 有明フェリー長洲港ターミナル**
 - ◆設計/石田敏明
 - 玉名郡長洲町大字長洲 TEL.0957-78-3358
 - 6:00~20:00
 - 島原湾に面し、熊本の西の玄関口として長崎県多比良港との間を結ぶ。護岸と平行して細長く配置され、ガラスを多用した建物。長洲港ターミナルがある長洲町では、毎年ゴールデンウィークに「火の国長洲金魚まつり」が開催される。

- Project No. 51 荒尾警察署長洲交番**
 - ◆設計/塚本政利+設計機構ワークス
 - 玉名郡長洲町大字長洲
 - 長洲フェリーターミナルに程近い国道沿いに位置。開放的なガラス張りの玄関やコミュニティルームを取り入れ、地域に親しまれるよう工夫されている。
- Project No. 58 鹿北町アート・プロジェクト**
 - ◆設計/山田良+山田綾子
 - 鹿北郡鹿北町大字岩野
 - 道の駅かほく「小栗郷」に隣接。もとは棚田であった敷地の高低差を生かし、地元産のアカヤ杉を使用した木のフレームを配置。荒仕上げの杉が様々な陰影を生み出し、視覚的遊びや発見と創造の楽しさを提供している。
- Project No. 59 県立農業大学校学生寮**
 - ◆設計/藤森照信+入江雅昭+柴田真秀+西山英夫
 - 菊池郡合志町栄 TEL.096-248-1188
 - 見学・写真撮影は要許可
 - 中庭を囲んだ回廊式・広場型の配置のテーマは「共同性」。集団生活を通して豊かな人間性と和を生み出すことを目的とした。建物には、県産材や有明海産の貝灰、阿蘇の火山灰土などを使用し、自然との共生を表現した。

熊本市

KUMAMOTO CITY



Project No. 1 熊本北警察署

◆設計/篠原一男+太宏設計事務所



- 熊本市草葉町 TEL.096-323-0110
- 見学、写真撮影は要許可、バス駐車不可

大きな建物が集中する国道沿いにあり、白川公園に隣接。正面一帯にハーフミラーを採用し、従来の警察署のイメージを一新した。正面の上層部分には柔道場やギャラリーが配置され、上へ行くほど広がる外観は、軽快感やスピード感を表現している。

Project No. 2 県営保田産第一団地

◆設計/山本理顕



- 熊本市帯山
- 外観のみ見学可、駐車不可

各住戸が中央広場を囲むように配置されており、この空間が全世帯の触れ合いの場になるよう期待される。また、各住戸が中庭や広いテラスを持ち、子どもたちが遊ぶ空間になっている。

Project No. 6 熊本市花畑パークトイレ

◆設計/大塚豊一



- 熊本市花畑町
- 近隣に大型駐車場あり

熊本城に程近い、楠やムクの大木が生い茂る花畑公園脇にある。外観は幾何学的に構成され、街路、公園の双方からのアプローチが可能になるよう男子、女子、多目的トイレをそれぞれ別棟とし、中庭を形づくるよう配置されている。

Project No. 7 熊本市上江津湖畔トイレ

◆設計/日田兆



- 熊本市神水本町

清水が湧き出し、貴重な生態系を持つ上江津湖に設置。男女、多目的トイレは各々小さな棟に分けられ、大きく円弧を描く壁の中に配置。リズムカルなスカイラインを創る高窓は、内部の明るさと安心感を表現している。

Project No. 8 熊本市営新地団地A

◆設計/早川邦彦



- 熊本市清水町新地
- 外観のみ見学可、駐車不可

地形や石垣、通路パターンなど、建替前の形状を残すよう配慮。全長170mの5階建住棟が両翼となり、内側に中庭を囲んだ低層棟を配置することで、親しみやすさを抱かせるとともに、外部空間の質が高い住区を構成している。

Project No. 9 熊本市営新地団地B

◆設計/緒方理一郎



- 熊本市清水町新地
- 外観のみ見学可、駐車不可

中央の広場を挟み、2つの住棟が向かい合う。すべての階段をプロムナードに直結することで、人と人が自然に行き交い、コミュニケーションを図る場を形成している。

Project No. 10 熊本市営新地団地C

◆設計/齋永謙



- 熊本市清水町新地
- 外観のみ見学可、駐車不可

新地団地の中央に位置し、団地の北側と南側を結び付けるように長大な住棟が屈曲している。また、歩道を歩く人に北側への視界を開き、住民にコミュニティーの場を提供するため、敷地の高低差を利用し、建物を浮かせてピロティが造られた。

Project No. 11 熊本市営新地団地D

◆設計/西岡弘



- 熊本市清水町新地
- 外観のみ見学可、駐車不可

東南アジア地域に共通する開放的で独特な複雑さとエネルギーの記憶が、形態と色によって刻まれている。外部に取り付けられ、各々異なる形と色の階段は、各住戸へのアプローチを分かりやすく示すとともに、北側の景色を眺望しながら住戸内部へ誘導する。

Project No. 12 熊本市営新地団地E

◆設計/上田憲二郎



- 熊本市清水町新地
- 外観のみ見学可、駐車不可

団地の中で最も低い3階建てを採用し、低密度ならではの居心地の良いプロムナードと井戸端会議の場を提供。また、周辺住宅地と接する団地中央には集会所を設け、団地以外の住民も利用しやすいよう配慮されている。

Project No. 14 熊本市営託麻団地

◆設計/坂本一成+長谷川逸子+松永安光



- 熊本市西原
- 外観のみ見学可、駐車不可

熊本市の北東部、阿蘇へ通じるなだらかな丘陵地に11棟が建つ。団地中央を縦断する歩行者専用のプロムナード(中央緑道)は、緩やかにカーブしながらゲートボール場や児童公園などを構成し、住民憩いの場となっている。

Project No. 17 県営帯山A団地

◆設計/新納至門



- 熊本市帯山
- 外観のみ見学可、駐車不可

3棟から構成。中間階はピロティによって広場を造り、人々の多様な関係を取り結ぶことを試みた。その広場を空中に浮かぶアクセスルート(スカイウォーク)によって繋ぎ、人の新たなコミュニケーションを生み出している。

Project No. 27 県営新渡鹿団地

◆設計/小宮山昭



- 熊本市渡鹿
- 外観のみ見学可、駐車不可

熊本市の東部、国道57号に繋がる幹線道路沿いに建つ。トラス大架構と中空床版により、住宅内に梁のない開放的かつ機能的な空間を実現。道路に面する北側は、都市景観の一部であるという認識から、ダイナミックな構造による形態的特徴を造り出した。

Project No. 32 再春館レディースレジデンス

◆設計/妹島和世



- 熊本市帯山
 - TEL096-384-5555(再春館製薬所総務課)
 - 外観のみ見学可
- 新入社員が暮らす女子寮。80人で生活することの一体感が重視された結果、一つの大きな家として捉えられた。基本的には個室以外は一室の大空間になっており、採光や通風を十分取り入れることで、明るく開放的な住空間をつくり出した。

Project No. 33 県立美術館分館

◆設計/エリアス・トールズ+ホセ・A・M・ラペーニャ+大和設計



- 熊本市千歳城町 TEL.096-351-8411
- 月休、9:30~17:00

隣接する熊本城の石垣の壮さ、力強さに呼応する外観。建物自体は改築で、兜のように突出した屋根は、展示ウォールを収納するためのもの。内部は温もりが感じられるよう、1階から4階までの吹き抜け部分には、木材を多用した。

Project No. 35 県営竜蛇平団地

◆設計/元倉眞琴



- 熊本市帯山
- 外観のみ見学可、駐車不可

国道57号に程近い熊本市の東部に位置する。大小二つの三角形が組み合わさった敷地の形を有効に利用するため、建物は2種類の住棟タイプで構成。広いテラスを積み重ねた段状タイプと高さを抑え周辺の街並みと連続性を図ったタイプである。

Project No. 40 白川橋景観整備

◆設計/藤江和子



- 熊本市二本木

熊本市の中心部を横切る白川をまたぎ、JR熊本駅に直結する。橋の頭上に連なるフライングライトは、昼間は陽光に輝き、夜は黒墨の世界に浮遊する光のオブジェに。毎年2月1日~3月10日、白川河川敷で日本最大級の規模を誇る「くまもと春の植木市」が開催される。

Project No. 48 熊本北警察署坪井交番

◆設計/マニエール・タルディツツ+加茂紀和子



- 熊本市坪井町

熊本城の北西、坪井川近くに位置。比較的交通量の多い道路上で、街のオアシスの存在。壁面に描かれた「KOBAN」の文字は鳥、広場にある球のオブジェは金の卵のイメージだ。

Project No. 57 水前寺江津湖公園管理棟

◆設計/牛田英作+キャサリン・フィンドレイ



- 熊本市広木町

豊かな湧き水を湛える市民憩いの場に建設。デッキからは湖畔が一望でき、休憩室としての利用も可能な会議室もある。屋上緑化や自然素材の利用により、周囲の自然に溶け込むよう工夫されている。江津湖では、毎年8月「火の国まつり花火大会」が開催される。

阿蘇

ASO AREA



Project No. 31 草地畜産研究所畜舎

◆設計/トム・ヘネガン+インガ・ダグフィンスドッター+桜樹会・古川建築事務所



●阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦
TEL.0967-32-1231
阿蘇外輪山の北側に広がる広大な草地に、4つの主要な畜舎を中心にした全部で11の建物が点在。深い屋根勾配は、外部では阿蘇からの火山灰の堆積を防ぎ、内部では自然換気を助けて舎内の蓄熱を抑えるという機能がある。また作業用採光のために屋根には透明なキャノピーが渡されている。

Project No. 38 花の温泉館

◆ワークショップ



●阿蘇郡産山村大字田尻
TEL.0967-25-2341
●第1・3・5火休、10:00~21:00
●入浴料500円
阿蘇外輪山の北東部、名水・池山水源そばにある。温泉の熱や水源の冷水など自然の力を利用し、周囲の自然に溶け込むようガラス温室を採用。毎年10月には温泉館の水車でひいた米の栞売り、餅つきなどがある「新米祭」が開催される。

Project No. 39 TOTO AQUAPIT ASO (阿蘇山上公共トイレ)

◆設計/木島安史



●阿蘇郡白水村大字中松
阿蘇・中岳火口へ向かうロープウェー乗り場の駐車場に位置。7棟で構成された建物は、それぞれが独立した機能を持ち、季節に合わせて数の増減が可能。また、火山灰や冬季の凍結への配慮もなされている。

Project No. 41 杖立橋+Pホール

◆設計/新井清一+シダ橋梁設計センター



●阿蘇郡小国町大字下城
TEL.0967-48-0484
杖立温泉街の中心に架かり、川と直交するオブジェとして位置付けられている。橋のたもとには多目的施設Pホールがある。毎年4月中旬~5月中旬、3500匹の鯉のぼりが杖立川を彩る「杖立温泉鯉のぼり祭り」を開催。

Project No. 46 馬見原橋

◆設計/青木淳+中央技術コンサルタンツ



●阿蘇郡蘇陽町大字馬見原
宮崎県との県境を流れる五ヶ瀬川に架かる橋。たもとから中央にかけて次第に分かれる2枚の面から構成されている。歩行者専用の下面版は地元産の杉を使ってあり、2つの丸い穴から川を見下ろせる造り。毎年7月下旬、川と一緒に遊ぶをテーマに「水遊祭」が開催され、手作りイカダのレースなどが行われる。

宇城 上益城

UKI/KAMIMASHIKI AREA



Project No. 4 三角港フェリーターミナル(海のピラミッド)

◆設計/葉祥栄



●宇土郡三角町大字三角浦
TEL.0964-53-1255
島原との間を結ぶ海上交通の拠点、三角港のシンボリック的存在。建物内外の二重螺旋のスクロープは、巻貝をモチーフとしている。円錐頂部のトプライトは昼間は自然光を導入し、夜間は発光する。毎年7月下旬には、三角港一帯で「みすみ港まつり」を開催。

Project No. 20 清和文楽館

◆設計/石井和紘



●上益城郡清和村大字大平
TEL.0967-82-3001
●月休、9:00~16:30(定期公演第2・4日曜)
文楽の上演や映像、人形展示等によって、江戸時代から伝わる清和文楽を紹介、伝承する施設。緑豊かな周囲の自然環境と調和するよう、木材の重なりを生かした独特の工法。毎年9月10日には、清和文楽館一帯で「文楽の里まつり」が開催される。

Project No. 23 鮎の瀬大橋

◆設計/大野美代子+中央技術コンサルタンツ



●上益城郡矢部町
深さ140mのV字谷、緑川渓谷のダイナミックな景観を生かして建築された。斜張橋とV字橋脚を組み合わせた斬新な構造になっている。「鮎の瀬大橋」のある矢部町では、毎年9月第1土~日曜に「八朔祭」が開催される。

Project No. 26 石打ダム管理所

◆設計/青木茂



●宇土郡三角町大字中村
●外観のみ見学可
石打ダムのある湖のほとりに建つ。8枚の軸の壁は、雲から雨へ、そして川となり最後は海になるという水の変化を表現。建物の内部はダムの湖底に水没した美しい林をイメージし、外部とは対照的にカラフルなデザインが施されている。

Project No. 42 石打ダム資料館

◆設計/入江経一



●宇土郡三角町大字中村
TEL.0964-54-1191
●月休、9:00~17:00
石打ダムに隣接。暮らしと水の関わりについて学習しながら、ダムと緑豊かな周囲の自然を眺望できる。円筒形の展望ロビーと天井高4.4mの展示ホールが、ダイナミックで開放的な空間を演出。



Project No. 45 不知火文化プラザ

◆設計/北川原温+伊藤建築事務所



●宇土郡不知火町高良
TEL.0964-32-6211(図書館)
八代海の不知火現象で知られる不知火町にあり、美術館と図書館から構成。不知火をモチーフにしたルーバースクリーンによって柔らかな光の空間を演出。前面の広場は町民のふれあいの場。不知火町では、毎年8月下旬に「不知火」海の日まつり&神秘的火「不知火」観望会」が開催される。

Project No. 54 宇土マリーナハウス

◆設計/吉松秀樹



●宇土市下網田町 TEL.0964-58-4500
●火・水休、8:30~17:00
島原湾に面しており、海に親しめる憩いの場を提供している。一つの大空間をもった建物ではなく、事務所やレストラン、艇庫・修理庫など個々の機能をもったいくつかの建築を寄せ集めたイメージで設計。建物はできる限り幾何学的な形態とし、素材も連続した質感を持たせて、マリーナ全体の連続性を高めている。

Project No. 56 漁業取締事務所

◆設計/小村健治



●宇土郡三角町大字三角浦
TEL.0964-52-2183
三角港にあり、違反操業の取り締まりなど海の交番としての役割を担う。海側に配置されたゲート状の大屋根や地面の隆起したデッキは、海とまちを結びつけることを意識し、本来港が備えていた生活空間を取り戻すことを試みている。

Project No. 66 清和文楽邑道の駅公共トイレ

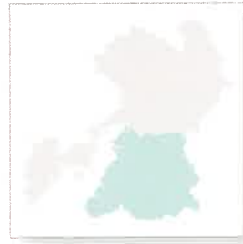
◆設計/小村健治



●上益城郡清和村大字大平
文楽館と物産館に隣接。木材をふんだんに使用したデザインは、これらの建物と融和し、控えめに存在を主張。夜ライトが灯されるとその個性を発揮し、道路利用者の道るべとして新しい景観を形成している。

八代・水俣・芦北 人吉・球磨

YATSUSHIRO/MINAMATA/ASHIKITA
HITYOYOSHI/KUMA
AREA



Project No. 3 加久藤トンネル換気所

◆設計/小山明+パシフィックコンサルタンツ



●人吉市大畑町、宮崎県えびの市東川北
●外観のみ見学可
国道221号のループ橋を越えた加久藤トンネル脇にあり、換気設備のダイナミックな構造を外から見学できる。画期的な空気の流れのシステムが、この換気所最大の特徴。建物全体を装置として機能させるとともに、周囲との調和を図りながら機能的に設計されている。

Project No. 5 八代市立博物館・未来の森ミュージアム

◆設計/伊東豊雄



●八代市西松江城町 TEL.0965-34-5555
●月休、9:00~17:00
入館料300円(常設展)
八代城址に近い、文教ゾーンの中心に位置するメタリックな建物。ヒューマンな環境を考慮し、威圧感を軽減することに注意が払われた。博物館のある八代市では、毎年11月23日に「妙見祭」が開催される。

Project No. 19 湯の香橋

◆設計/岸和郎



●芦北郡芦北町湯浦
TEL.0966-82-2511(芦北町役場)
●夜間照明19:00~22:00
国道を横切る湯浦川に架かる。建築の主眼は、新しい物語を生み出すような橋の創造。川の水を身近に感じるテラスを設けてある。7月下旬には、湯浦河川緑地公園で「湯の香まつり」が開催される。

Project No. 22 球磨工業高校伝統建築コース加工組立室棟

◆設計/象設計集団



●人吉市城本町 TEL.0966-22-4189
●見学・写真撮影は要許可
円形回廊、屋上テラスなどで全体を結んでいる。加工組立室棟は、木造の大架構の面白さ、光の美しさを表現、新しい木造建築の一つとして提案された。

Project No. 34 湯前まんが美術館・公民館

◆設計/桂英昭



●球磨郡湯前町 TEL.0966-43-2050
●無休(年末年始を除く)、9:30~17:00
入館料300円
周囲を市房山公園に囲まれており、同町出身の政治漫画家、故・那須良輔氏の作品を常設展示。建物のモチーフは、人吉・球磨地方に伝わる伝統玩具「まじ馬」だ。「湯前まんが美術館」一帯では、毎年11月に「ゆのまえ漫画フェスタ」を開催。

Project No. 36 つなぎ物産ギャラリー

◆設計/北山孝二郎



●芦北郡津奈木町岩城
TEL.0966-78-2000
●第1水休、9:00~18:00
国道3号沿いにありながら津奈木川やめがね橋、舞鶴城公園の山々など恵まれた景観の中にある。物産館やレストランが施設本来の機能だが、公園、川、橋といった周囲の環境と結びついて、無目的に訪れてもゆったり楽しく過ごしてもらえるよう計画されている。毎年8月15日には津奈木湾干拓堤防沿いで「競り舟大会」が開催される。

Project No. 49 ふれあいセンターいすみ

◆設計/武田光史+ロコス設計同人



●八代郡泉村大字岳 TEL.0965-67-3500
●水休、9:00~17:00
泉村の玄関口にあり、物産レストラン棟と村の福利厚生施設としてのコミュニティー棟が、広場をぐるりと取り囲むようなデザイン。ゴールデンウィークと紅葉の時期にはこの広場でイノシシ肉を焼くなどのイベントも開催。「秘境」といわれるほど山深い泉村、紅葉シーズンには多くの人が訪れ毎年11月には「紅葉祭り」が行われる。

Project No. 52 県立あしきた青少年の家

◆設計/エリア・ゼンゲリス+エレニ・ジガンテス+鈴木了二+島村建築設計事務所



●芦北郡芦北町鶴木山
TEL.0966-82-3092
八代海沿岸に面した丘の上に建つ。自然に恵まれた敷地の条件を最大限に生かすため、海側の眺望を確保し、北側の後線を可能な限り残すよう考慮された。建物は地形に馴染むように屈曲し、屋根は優しい曲線を描いている。

Project No. 61 氷川ダム管理所

◆設計/野中暉夫



●八代郡泉村大字下岳
TEL.0965-67-2921
ダムを監視、管理するという本来の目的に加え、桜の名所でもあるダム湖公園の展望所としての機能を併せ持つ。ダムのスケールに拮抗するダイナミックな階段塔と展望デッキは吊り橋を連想させる。このデッキに隣接する多目的ホールはギャラリーとして地域に開放されている。

Project No. 63 八代市立高田あけぼの保育園

◆設計/みかんぐみ



●八代市本野町 TEL.0965-32-3923
●見学・撮影は要許可
住民との共同作業によって造られた保育園。保育士や園児、市民らの声をもとにデザインやペインティングが行われた。テラスを始めたというオープンな構造で、地域に溶けこむ園になっている。

天草

AMAKUSA AREA



Project No. 16 牛深ハイヤ大橋

◆設計/レンゾ・ピアノ+ピーター・ライス+岡部憲明+マエダ



●牛深市牛深町
深い入江と牛深漁港をまたぎ、美しい弧を描く橋。これにより、臨港連絡橋として20分の時間短縮が可能となった。4月第3土~日曜には、牛深ハイヤ大橋周辺で「牛深ハイヤ祭り」が開催される。

Project No. 25 松島町合津終末処理場管理棟

◆設計/齋藤宏



●天草郡松島町大字合津
TEL.0969-56-3195
●土日祝休、8:30~17:15
●見学・写真撮影要許可
管理棟の機能を機械設備部門など4つに分け部門ごとに集約。それらのセクションと、海に浮かぶ島々や行き交う船、島々を結ぶ橋、隠れキリシタンのクルスなど、松島町を象徴する環境要素をモチーフとした融合を試みた。

Project No. 37 教会の見えるチャペルの鐘展望公園

◆設計/梅田正徳+スペースデザイン設計事務所



●天草郡河浦町崎津
TEL.09697-6-1111(河浦町役場)
天草灘の入江にあるキリシタンと漁港の街、崎津。505段の石段を上ると東シナ海を見渡すように鐘楼がそびえ立つ。毎年8月5日は、公園近くの崎津教会一帯で「教会の見える崎津みなどのフェスティバル」を開催。

Project No. 43 天草ビジターセンター・天草展望休憩所

◆設計/古谷誠章+中川建築設計事務所



●天草郡松島町大字合津
TEL.0969-56-3665
●月休、9:00~17:00
雲仙天草国立公園の東の玄関口にあり、建物からは天草の海や島々を一望。この絶景を最大限に生かすため、海側は全面ガラス張りになっている。壁や床には天草各地で採集した石を使用した。

Project No. 44 うしぶか海鮮館

◆設計/内藤廣



●牛深市牛深町
TEL.09697-3-3818
●第3火休、9:00~18:00
県内最大の漁港、牛深港のほぼ中心に位置。海産物販売店や、レストラン、展示ゾーンのほか、交通ターミナルやフェリー発着所も併設。施設全体を大屋根で覆い、開放的で広がりのある空間になっている。

Project No. 47 天草工業高校実習棟・体育館

◆設計/室伏次郎+SDA建築設計事務所



●本渡市亀場町 TEL.0969-23-2330
天草の上島と下島を結ぶループ橋、天草瀬戸大橋のたもとにあり、本渡市の入り口としてランドマーク的存在となっている。建物には、気候を考慮しガラス材を多用。旧校舎と一体化した新築部分は、海に浮かぶ大型客船を思わせる。

Project No. 60 富岡岡地公衆トイレ

◆設計/松本健志+A・I・R



●天草郡吾北町四季咲井
細く突き出た富岡半島にあり、天草灘を一望。強い水平のラインが周囲の自然に溶け込み、樹木の垂直のラインに対比。内部空間のプライバシーは確保しながら開放感溢れるスペースをつくり出している。毎年7月には、富岡港周辺で「茶北じゅと祭」が開催される。

その他

Project No. 13 県道橋景観整備(基礎調査)

完了
◆倉俣史朗+高木富士川計画事務所

Project No. 15 光のまちづくり

構想完了
◆岩崎敏+瀬口英徳 ●山鹿市

Project No. 18 玉名市文化施設構想

構想完了
◆豊田文生 ●玉名市

Project No. 24 公園ファニチャーデザイン

同整備マニュアル 完了
◆沖健次+東京ランドスケープ研究所

Project No. 28 大津町第二庁舎・町民交流施設

設計完了
◆鈴木了二 ●菊池郡大津町

Project No. 30 大甲橋景観整備

設計完了
◆倉俣史朗 ●熊本市